

北海道に貢献する意欲のある若者の 海外への挑戦 を応援します！

ほっかいどう未来チャレンジ基金による助成事業のご案内

趣旨

ほっかいどう未来チャレンジ基金は、道内外の企業や篤志家の皆様からの寄附金もいただきながら、北海道に貢献する意欲のある若者の海外での挑戦を官民挙げて応援するため、平成28年12月に創設した基金です。世界を視野に入れながら、ふるさと北海道に思いを馳せ、将来の北海道に貢献する若者たちを応援しています。

主な要件

※以下、平成29年度の内容です

- 平成29年4月1日現在、満18歳以上39歳以下の方（学生留学コースを除く）
- 北海道に在住し、北海道の発展や社会のために貢献したい志がある方
- グローバルリーダーを志し世界の人々との交流を通じた経験から学ぼうとする意欲がある方
- 帰国後3年間は本道に居住し、道が主催する交流会・行事等に参加できる方（学生留学コースを除く） など

支援コース

<h4>学生留学コース</h4> <p>大学生等の農林水産業、食関連・ものづくり、観光、環境・エネルギーの分野での海外留学を支援します。 支援対象：3～6か月の海外留学 支援人数：6名程度</p>	<h4>スポーツコース</h4> <p>世界に通用するアスリートを育成・輩出する指導者を目指す若者の海外研修を支援します。 留学期間：3～12か月の海外研修 支援人数：若干名 ※障害のある方の留学期間は1～12か月</p>
<h4>文化芸術コース</h4> <p>国際的に活躍するアーティストを目指す若者の海外コンクール参加等を支援します。 支援対象：海外コンクール及び3～12か月の海外研修 支援人数：若干名</p>	<h4>未来の匠コース</h4> <p>料理人、木工家具職人など世界レベルの「職人」を目指す若者の国際大会参加等を支援します。 支援対象：国際大会及び3～12か月の海外研修 支援人数：若干名</p>

支援内容（主なもの）

- ◎ 滞在費（定額） 120,000円/月 または 160,000円/月（派遣先地域により変動）
- ◎ 往復渡航費（定額） 100,000円 または 200,000円（派遣先地域により変動）
- ◎ 授業料、研修費、入学金、授業料、手数料等 上限300,000円
- ◎ 国際的大会等参加経費（参加費、宿泊費、交通運賃、機材運搬費等（実費））
※内容、上限額はコースにより異なりますので、詳しくは募集要項等をご覧ください。

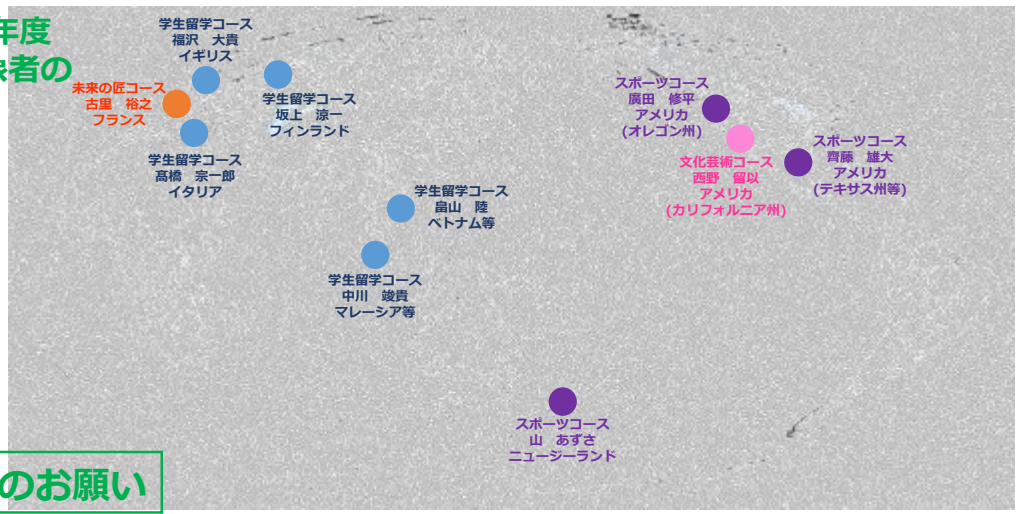
詳しくはホームページをご覧ください。 [ほっかいどう未来チャレンジ基金](#)

※平成30年度の支援内容等は、平成30年4月に公開予定です。

北海道総合政策部政策局総合教育推進室
TEL：011-206-7380（直通） FAX：011-232-6313
E-mail：mirai.jinzai@pref.hokkaido.lg.jp
ホームページ：http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/sky/mirai-jinzai.htm

Facebookページ [みらいチャレンジ](#)
第1期生のチャレンジ風景をお届けします。

平成29年度 助成対象者の留学先



ご寄附のお願い

本基金は、北海道の未来を担う若者の挑戦を応援するという趣旨に賛同された企業や個人の皆様（応援パートナー）からの寄附及び道からの拠出で成り立っています。

「ほっかいどう未来チャレンジ基金」の仕組み



応援パートナーになって北海道の将来を担う人材の育成に参加しませんか？

ご寄附・ご協力いただいた皆様が、**応援パートナー**です。

若者たちが、世界へ、未来へ挑戦するためには、多くの皆様の支えが必要です。また、多くの方に支えられているという実感が、若者たちのさらなる成長につながります。応援パートナーと支援を受けた若者の交流を促進します。

<p>ポイント1 北海道庁のホームページで企業名などを紹介！</p>	<p>ポイント2 イベント等で若者たちとの交流機会ができる！</p>
<p>ポイント3 北海道への寄附にあたるため税制上のメリットが大きい！</p>	<p>ポイント4 グローバル人材活用のネットワークに参加できる！</p>

★応援パートナーの皆様（平成29年12月現在）

有末 真哉 遠藤 光二 武田 孝 (拓殖工業(株)代表取締役会長) 船津 秀樹 他、匿名希望1社

ご寄附のお願い

寄附申出書を担当窓口へ送付（郵送、FAX、電子メール） → 北海道から納付書を送付 → 金融機関窓口、コンビニエンスストア、インターネットのいずれかの方法で寄附金支払 → 北海道から「パートナー証」と「寄附金受領証明書」を送付

海外で挑戦してきます！（平成29年度助成対象者のご紹介）

学生留学コース



北海道情報大学
坂上 涼一
Sakagami Ryoichi

- 留学先 フィンランド（受入機関：オウル応用科学大学、現地観光案内所）
- 留学期間 平成29年8月～ 5か月間
- 留学目的 多様化した観光ニーズに対応して、観光資源の情報発信方法も多様化するため、ICT先進国で高度なスマホアプリやゲームの開発プロセス、マーケティング技術を学ぶ。
- 意気込み 多くの方々に支えられ、このようなチャンス을いただきました。フィンランドでITに関する専門知識を深め、将来北海道に貢献できる人材になります。



- 【活動歴】
 - ・札幌市市民活動サポートセンターの依頼によるKIDSページ作成
 - ・所属大学Webデザインコンテスト入賞
 - ・タイの学生とのコラボ作品制作 など



酪農学園大学
高橋 宗一郎
Takahashi Soichiro

- 留学先 イタリア（受入機関：マルケ工科大学、現地ワイナリー）
- 留学期間 平成29年9月～ 4か月間
- 留学目的 イタリアワインの歴史や天然酵母の生かし方について学ぶ。
- 意気込み 北海道の気候はフランス系、ドイツ系の品種に適しているため、イタリアでワイン作りを学んだ人は多くありません。歴史あるイタリアでのワイン作りをブドウ栽培から学び、その土地のワインとは何なのかをこの眼で見たいと思っています。



- 【活動歴】
 - ・高校では調理学（イタリア料理）、大学では栄養学を学び、大学院でワインを研究中。
 - ・酪農学園大学オリジナルワインプロジェクト（ROWP）に学生代表として参加



北海学園大学
中川 峻貴
Nakagawa Shunki

- 留学先 マレーシア、インドネシア、UAE（受入機関：現地メーカー、スーパー等）
- 留学期間 平成29年8月～ 6か月間
- 留学目的 現地調査を通じてハラル食市場を学び、中小企業にも可能なハラル認証取得方法を探り、北海道からのハラル食輸出などに貢献できることをめざす。
- 意気込み これまでの短期留学や海外展示商談会へ学生通訳などの経験や知識を基盤に、多種多様な人々と信頼関係を築くために必要な素養を身につけるべく、ハラル食をテーマに留学計画を実行していきたいと思っています。



- 【活動歴】
 - ・シンガポールやタイで行われた国際展示商談会などに学生通訳として、香港での北海道物産展などに販売スタッフとして、参加経験あり



小樽商科大学
島山 陸
Hatakeyama Riku

- 留学先 ベトナム（受入機関：現地法人立ち上げ予定）
- 留学期間 平成29年8月～ 4か月間
- 留学目的 宿泊者と観光地・各種体験、札幌の人と旅行者など、点と点をつなぐゲストハウスの海外拠点を作ることで双方向での交流が生まれる空間づくりをめざす。海外のビジネスに臆することなくチャレンジできる自分に成長したい。
- 意気込み 将来は私自身のビジネスで貧困をなくし、かつ貧困地域の方のお金のための「シゴト」する概念を変えたいです。本プロジェクトの経験はそのための大きな一歩として私には必要不可欠な経験になると確信しています。



- 【活動歴】
 - ・今回の海外展開プロジェクトをともに行う㈱FULLCOMMISSIONN（不動産のベンチャー企業）でのインターンシップとしてゲストハウス立ち上げやイベント企画などに従事



北星学園大学
福沢 大貴
Fukuzawa Daiki

- 留学先 イギリス（受入機関：リージェンツ大学、現地出版業社）
- 留学期間 平成29年9月～ 5か月間
- 留学目的 ファッションを通して、アイヌ文化、中でもアイヌ文様（刺繍）を世界に発信し、ブランド化、トレンド化をはかり、将来一緒に仕事ができる仲間たちとの繋がりを作る。
- 意気込み 若者にはまだ多くは知られていないアイヌ文化を若者にどう伝えるかを考えた結果、まず最初の入口としてファッションに取り入れようと考えました。北海道発祥のアイヌの自作ブランドを発売し、北海道の発展に貢献していきたいです。



- 【活動歴】
 - ・ファッション美容団体「ideal」に加入し、代表として団体を活性化。北海道文化論の教授などからアイヌ文化の背景、アイヌ文様の意味等を学び、またアイヌ文様刺繍の衣装を製作中

スポーツコース



北海道メディカルスポーツ専門学校
齊藤 雄大
Saitoh Yuta

- 研修先 アメリカ（テキサス州・アラバマ州）
- 研修期間 平成29年8月～ 12か月間
- 研修目的 車椅子スポーツ大学プログラム、障がい者スポーツクラブで競技、運営、練習方法、指導プログラムなど障がい者スポーツプログラムやパラアスリート指導者を育成するスキルを学ぶ。
- 意気込み 競技人口の少ない北海道では、選手が様々な種目に取り組みやすいシステムが必要です。北海道に障がい者スポーツの拠点を創るという私の目標に向けて、また北海道の障がい者スポーツの発展に向けて、今回の海外研修を大きな大きな一歩にしたいと考えております。



- 【指導歴】
 - ・北海道メディカルスポーツ専門学校専任教員（H28～）
 - ・ハイテクアスリートクラブコーチ・アドバイザー（H29～）
 - ・日本車椅子ソフトボール日本代表監督（H27～） など



北翔大学
廣田 修平
Hirota Shuhei

- 研修先 アメリカ（オレゴン州）
- 研修期間 平成29年11月～ 4か月間
- 研修目的 アメリカ最大規模の会員制総合スポーツクラブで体操競技のコーチング研修を実施し、ジュニア選手養成システム、国際的なコーチングスキルの習得、クラブチームの運営形態を学ぶ。
- 意気込み 本事業は、今後の北海道における体操競技選手育成ならびに自分自身のコーチング活動において、大きな一歩になると確信しています。学ぶチャンスをいただいた者として、美りの多い研修活動になるよう努めてまいります。



- 【活動歴】
 - ・第65回国民体育大会体操競技選手権大会成年男子8位入賞（H22）
 - ・第47回全日本シニア体操競技選手権大会男子1部団体総合5位入賞（H26）
- 【指導歴】
 - ・北翔大学生涯スポーツ学部スポーツ教育学科講師（H25～）
 - ・准教授（H29～）
 - ・全日本学生体操競技選手権大会2部個人総合優勝・入賞等（H27・H28）



株式会社メガカリスネットワーク
山 あずさ
Yama Azusa

- 研修先 ニュージーランド（ハミルトン）
- 研修期間 平成29年11月～ 12か月間
- 研修目的 ラグビーの本場ニュージーランドラグビーの強豪クラブチームに参加し、強さの秘訣や指導方法、また女性指導者だからこそできること、伝えられることを学び、北海道の女子ラグビーの普及やレベルアップを図る。
- 意気込み 一年間ラグビーの本場ニュージーランドでたくさんのことを学び、ひとつでも多くのことを北海道、そしてラグビー界に貢献できればと思っています。



- 【活動歴】
 - ・女子ラグビー日本代表（中学・高校時も日本代表）
 - ・女子アジアチャンピオンシップ大会優勝（H27）
 - ・北海道バーバリアンズディアナキャプテン

文化芸術コース



Fe.dance studio
西野 留以
Nishino Rui

- 研修先 アメリカ（カリフォルニア州）
- 研修期間 平成30年1月～ 3か月間
- 研修目的 ダンスで中心的都市のひとつロサンゼルスで、幅広いジャンル、多彩な講師・振付師が在籍するダンススタジオでのレッスン受講、舞台やイベントのオーディションへ挑戦し、世界のダンスを学ぶ。
- 意気込み 憧れの海外で自分ができる全ての事に挑戦して、この3か月間で学んだことを持ち帰り、多くの方々に伝えて、海外と北海道がダンス文化で繋がる交流などを実現してみたいです。



- 【活動歴】
 - ・14年間、北海道を中心にクラシックバレエ、ジャズダンス、ヒップホップダンスを学んで、札幌文化団体協議会など多くの舞台や大会、イベントに参加
 - ・芸王グランプリダンスコンテスト全国優勝（H29）

未来の匠コース



全日本司厨士協会
古里 裕之
Furusato Hiroyuki

- 研修先 フランス（パリ、ランス）
- 研修期間 平成29年7月～ 6か月間
- 研修目的 老舗や星付きレストランで研修し、発想力、手法、プロデュースの仕方、特にジビエと酸の料理を習得し、道産食材で表現する料理技術を高める。
- 意気込み 今回の基金を最大限に活かし、北海道フレンチを確立し、さらなる観光客の増加と北海道食の魅力を多くの方に伝えていきます。



- 【活動歴】
 - ・北海道全調理師会技能コンクール 優勝
 - ・FHA2006シンガポール国際料理コンクール日本代表
 - ・第16回AJCAトックドール料理コンテスト北海道代表 など

面接二次審査の審査員（パートナーズリーダー）からのコメント



それぞれがきちんとした目的意識、北海道のため何らかの役割を果たしたいという思いを持っていることに、非常に感銘を受けた。留学先から持ち帰った知見を広めたり、マーケティングに結びつけるためには難しさ、壁があると思うが、北海道に戻ってきて、起業したり、活動するときには我々も支援するので、どうかがんばってください。

株式会社アミノアップ化学代表取締役会長 小砂 憲一



皆さんは北海道にとって宝。訪日の際の目的の一つに約7割の人が「日本食を食べる事」を挙げていると聞いています。機会があれば、外国の方々に北海道の食を紹介してあげてください。

元氣に戻ってきて、北海道のためにご活躍いただければと思います。私は大いに期待したい。

株式会社すし善代表取締役 嶋宮 勤



外で学んでくることは大切だが、こちらから輸出するというか、自分たちのアイデンティティをどうやって伝えるかということも非常に大事なエッセンスだと思う。

学んできたことと日本の良さを混ぜてよりよいものを作ってほしい。

地方独立行政法人北海道立総合研究機構 理事長 丹保 憲仁



これからの北海道を担っていく期待の人として、皆さんが持っている資質がある。

それは、自分をしっかり主張できること。その資質、自信は北海道という土台がくれたものかもしれない。それを海外ではっきりと打ち出して、そしてもっと大きな人になって帰ってきてほしい。

株式会社セコマ代表取締役社長 丸谷 智保